

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2002-530166(P2002-530166A)

【公表日】平成14年9月17日(2002.9.17)

【出願番号】特願2000-583601(P2000-583601)

【国際特許分類第7版】

A 6 3 C 17/06

A 6 3 C 17/00

【F I】

A 6 3 C 17/06

A 6 3 C 17/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成17年1月24日(2005.1.24)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】発明の名称

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【発明の名称】フォームコア式のインライнстスケート・フレーム

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

靴部分と、地面を縦走可能な複数の車輪とを有するインライнстスケートのためのスケート・フレームにおいて、

(a) 第1の平均密度を有した構造材料で構成されると共に、それぞれ上端部、下端部および外面を有する第1および第2の側壁と、それらの側壁における上端部の少なくとも一部分同士の間に延びる靴取付部とを有する細長い構造部材であって、

前記第1および第2の側壁は、前記車輪に関連した荷重が当該構造部材に伝達される箇所である車輪荷重導入部分を有すると共に、

前記靴取付部は、前記靴部分に関連した荷重が当該構造部材に伝達される箇所である靴荷重導入部分を有する、構造部材と、

(b) 前記第1および第2の側壁の少なくとも一方の内部または前記靴取付部の内部に配置され、前記構造材料または充填材によって前記側壁および/または前記靴取付部の内部に密封されると共に、少なくとも前記車輪荷重導入部分および前記靴荷重導入部分には存在しないようになされたコア材と

を備えたことを特徴とするスケート・フレーム。

【請求項2】

前記コア材は、前記構造材料の密度よりも低い第2の平均密度を有すると共に、当該スケート・フレームの構造的な比強度を増大させるように前記構造部材内の一定容積を占めている、ことを特徴とする請求項1記載のスケート・フレーム。

【請求項3】

前記コア材は、粘弹性材、非強化ポリマー、強化ポリマーおよび天然に産出される纖維状ないし気泡状の材料からなる群より選択された硬質構造材料を含む、ことを特徴とする

請求項 2 記載のスケート・フレーム。

【請求項 4】

前記コア材は、構造発泡材、合成発泡材または木材である、ことを特徴とする請求項 3 記載のスケート・フレーム。

【請求項 5】

前記コア材は、前記第 1 および第 2 の側壁内に配置されている、ことを特徴とする請求項 3 記載のスケート・フレーム。

【請求項 6】

前記コア材は、前記第 1 および第 2 の側壁内と前記靴取付部内の両方に配置されている、ことを特徴とする請求項 3 記載のスケート・フレーム。

【請求項 7】

前記側壁は、当該側壁の下端部を横方向に貫通して延びる軸取付穴を形成し、

前記軸取付穴および前記靴取付部に関連した加重から前記コア材を隔絶するために、当該コア材が、各側壁内において、前記軸取付穴の上方の所定位置から前記靴取付部の下方の所定位置まで延びている、ことを特徴とする請求項 3 記載のスケート・フレーム。

【請求項 8】

前記充填材は、前記コア材よりも大きな密度、強度および剛性を有すると共に、前記車輪に関連した荷重の少なくとも一部を吸収するために前記コア材と前記車輪荷重導入部分との間に配置されている、ことを特徴とする請求項 7 記載のスケート・フレーム。

【請求項 9】

前記充填材は強化複合材である、ことを特徴とする請求項 8 記載のスケート・フレーム。

【請求項 10】

前記コア材は、前記靴取付部内に配置されている、ことを特徴とする請求項 3 記載のスケート・フレーム。

【請求項 11】

前記コア材は、当該フレームの両端部の間に延びる縦軸に沿って変化する高さをなしている、ことを特徴とする請求項 10 記載のスケート・フレーム。

【請求項 12】

前記構造材料の前記靴取付部と前記第 1 および第 2 の側壁とが、3 ピース構造のスケート・フレームを形成するような別部材である、ことを特徴とする請求項 3 記載のスケート・フレーム。

【請求項 13】

前記コア材は、前記第 1 および第 2 の側壁内に配置されている、ことを特徴とする請求項 12 記載のスケート・フレーム。

【請求項 14】

前記靴取付部は、2 ピース構造のスケート・フレームを形成するように、前記第 1 および第 2 の側壁の上端部と一体的に形成されている、ことを特徴とする請求項 3 記載のスケート・フレーム。

【請求項 15】

前記コア材は、前記第 1 および第 2 の側壁内に配置されている、ことを特徴とする請求項 14 記載のスケート・フレーム。

【請求項 16】

前記コア材は、前記第 1 および第 2 の側壁内に配置されると共に、その輪郭を当該スケート・フレームの外面が反映するように輪郭付けられている、ことを特徴とする請求項 1 記載のスケート・フレーム。

【請求項 17】

前記第 1 および第 2 の側壁は複合材であり、当該スケート・フレームの製造過程において前記コア材が輪郭部分を形成するようになっている、ことを特徴とする請求項 16 記載のスケート・フレーム。

【請求項 18】

各側壁は、内側および外側半部を有し、

各側壁の前記内側および外側半部は、材料から型押しないし成形されて輪郭部分を形成し、

前記輪郭部分は、前記2つの半部同士が互いに結合される際に、各側壁における前記内側および外側半部の当該輪郭部分内に前記コア材が配置されるようにして、前記コア材を内部に受け入れる寸法になされている、ことを特徴とする請求項1記載のスケート・フレーム。

【請求項 19】

靴部分と、地面を縦走可能な複数の車輪とを有するインライнстケートのためのスケート・フレームにおいて、

(a) 所定の平均密度を有した構造材料で構成されると共に、それぞれ上端部および下端部を有する第1および第2の側壁であって、それらの下端部がそれぞれ、前記車輪に関連した荷重が当該側壁に伝達される箇所である車輪荷重導入部分を有する第1および第2の側壁と、

(b) 所定の平均密度を有した構造材料で構成されると共に、前記第1および第2の側壁の上端部同士の間に配置された靴取付部であって、前記靴部分に関連した荷重が当該靴取付部に伝達される箇所である靴荷重導入部分を有する靴取付部と、

(c) 前記第1および第2の側壁の少なくとも一方の内部または前記靴取付部の内部に配置されると共に、少なくとも前記車輪荷重導入部分および前記靴荷重導入部分には存在しないようになされたコア材と

を備えたことを特徴とするスケート・フレーム。

【請求項 20】

前記コア材は、前記2つの側壁および前記靴取付部のための材料の密度よりも低い平均密度を有する非強化材または強化材である、ことを特徴とする請求項19記載のスケート・フレーム。

【請求項 21】

前記コア材よりも大きな密度、強度および剛性を有する充填材の詰め物を更に備え、

この充填材は、前記車輪に関連した荷重の少なくとも一部を吸収するために前記コア材と前記車輪荷重導入部分との間に配置されている、ことを特徴とする請求項20記載のスケート・フレーム。

【請求項 22】

前記コア材は、前記第1および第2の側壁内に配置されている、ことを特徴とする請求項19記載のスケート・フレーム。

【請求項 23】

前記コア材は、前記靴取付部内に配置されている、ことを特徴とする請求項19記載のスケート・フレーム。

【請求項 24】

前記コア材は、当該フレームの両端部の間に延びる縦軸に沿って変化する深さを有している、ことを特徴とする請求項23記載のスケート・フレーム。

【請求項 25】

前記コア材は、前記第1および第2の側壁内と前記靴取付部内に配置されている、ことを特徴とする請求項21記載のスケート・フレーム。

【請求項 26】

靴部分と、地面を縦走可能な複数の車輪とを有するインライнстケートのためのスケート・フレームにおいて、

(a) 第1の平均密度を有した構造材料で構成されると共に、前端部と、後端部と、内面と、外面と、上端部および下端部をそれぞれ有した第1および第2の側壁と、それらの側壁の上端部同士の間に延びる靴取付部とを有する細長い構造部材であって、

当該構造部材の前端部と後端部との間に定められた縦軸に沿って延びる隙間が前記靴取

付部の内面と外面との間に形成されるように、前記第1および第2の側壁の下端部同士の間が前記車輪を受け入れるために離間されている、構造部材と、

(b) 前記隙間の内部に配置され、前記第1の側壁と第2の側壁との間に延びるコア材と

を備えたことを特徴とするスケート・フレーム。

【請求項27】

前記コア材は、前記構造材料の密度よりも低い第2の平均密度を有する非強化材である、ことを特徴とする請求項26記載のスケート・フレーム。

【請求項28】

前記コア材は、強化ポリマー、非強化ポリマー、粘弹性材、および天然に産出される纖維状ないし気泡状の材料からなる群より選択された硬質構造材料を含む、ことを特徴とする請求項27記載のスケート・フレーム。

【請求項29】

前記コア材は、当該フレームの前端部と後端部との間に延びる縦軸に沿って変化する高さを有する、ことを特徴とする請求項28記載のスケート・フレーム。

【請求項30】

靴部分と、縦方向に整列されて地面を縦走可能な複数の車輪とを有するインライнстケートのためのスケート・フレームの構築方法において、

(a) 第1のスキンを型上に形成する工程と、

(b) 前記第1のスキン上の所定位置にコア材を配置する工程と、

(c) 前記第1のスキンと第2のスキンとの間に前記コア材が配置され密封されるよう、当該第2のスキンを前記第1のスキンの上に形成する工程と、

(d) 当該フレームを硬化させる工程と

を備えたことを特徴とするスケート・フレームの構築方法。

【請求項31】

前記コア材は、前記第1および第2のスキンの密度よりも低い平均密度を有する非強化材である、ことを特徴とする請求項30記載のスケート・フレームの構築方法。

【請求項32】

前記硬化させる工程の前に、前記車輪に関連した荷重の少なくとも一部を吸収するために、前記第1のスキンと第2のスキンとの間に充填材の詰め物を配置する工程を更に備えた、ことを特徴とする請求項31記載のスケート・フレームの構築方法。

【請求項33】

靴部分と、縦方向に整列されて地面を縦走可能な複数の車輪とを有するインライнстケートのためのスケート・フレームの構築方法において、

(a) 第1のスキンを型上に形成する工程と、

(b) 前記第1のスキン上の所定位置にコア材を配置する工程と、

(c) 前記コア材の上に装飾シートを成層して、前記第1のスキンと当該装飾シートとの間に前記コア材を密封する工程と、

(d) 当該フレームを硬化させる工程と

を備えたことを特徴とするスケート・フレームの構築方法。

【請求項34】

前記コア材の上に装飾シートを成層する工程の前に、前記コア材と前記装飾シートとの間に第2のスキンが配置されるように、当該第2のスキンを前記コア材の上に形成する工程を更に備えた、ことを特徴とする請求項33記載のスケート・フレームの構築方法。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0012

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0012】

インライнстスケートは、靴部分と、縦方向に整列されて地面を縦走可能な複数の車輪とを有している。スケート・フレームは、第1および第2の側壁と靴取付部とを含んでいる。好ましくは、それらの側壁および靴取付部は、第1の平均密度を有した構造材料で構成されるスキンを含んでいる。各側壁は、それぞれ上端部と下端部とを有している。各側壁の下端部は、車輪に関連した荷重が当該側壁に伝達される箇所である車輪荷重導入部分を有している。各側壁の上端部は、それらの間に渡る靴取付部によって、互いに平行に離間した配置に保持されている。ている。靴取付部は、靴部分に関連した荷重が当該靴取付部に伝達される箇所である靴荷重導入部分を含んでいる。スケート・フレームはまた、第1および第2の側壁の少なくとも一方の内部または靴取付部の内部に配置されるコア材を含んでいる。そのコア材は、少なくとも車輪荷重導入部分および靴荷重導入部分からは取り除かれている。